

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は弱まっている。

- ・ 鉱工業生産は減少している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は悪化しつつある。

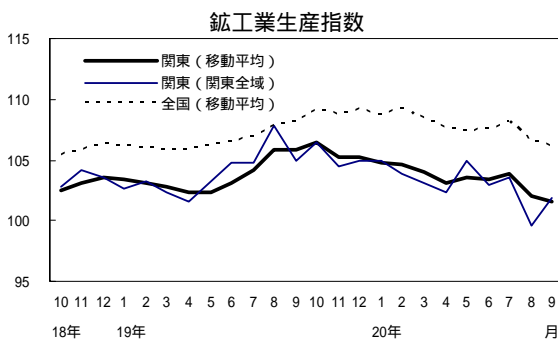
前回調査からの主要変更点

	前回（平成20年8月）	今回（平成20年11月）	
景況判断	やや弱含み	弱まっている	
鉱工業生産	おおむね横ばい	減少	
住宅建設	大幅に減少	大幅に増加	
雇用情勢	やや弱含み	悪化しつつある	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は減少している。(関東全域)

輸送機械は、乗用車及び自動車部品等が低調に推移したため、3四半期連続で減少している。化学は、原材料高によりレジ袋などに使われるポリエチレンや食品トレーなどに使われるスチレンモノマーが生産調整の影響で振るわなかったことから、減少している。一般機械は、半導体製造装置や金属工作機械が低調であったため、3四半期連続で減少している。電気機械は、鉄道会社向け開閉制御装置、電力会社向け非標準変圧器などが前期の反動で減少し、産業用ロボットの駆動源であるサーボモータも低調だったことから、減少している。



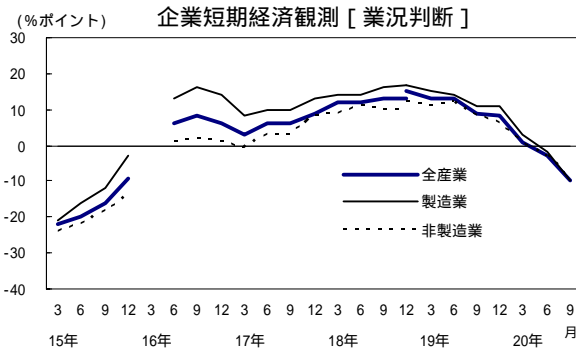
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	15.2	0.3	0.2	0.8	7.2
化学	13.4	2.4	0.4	2.1	7.1
一般機械	13.2	3.1	4.9	6.6	4.4
電気機械	7.8	1.3	1.3	0.7	1.8
食品・たばこ	7.1	2.1	2.9	0.4	1.7
鉱工業	100.0	0.6	1.7	1.3	1.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 食品・たばこの在庫指数は公表されていない。

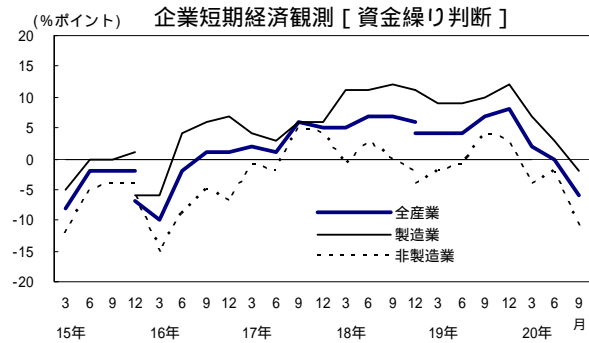
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「苦しい」超に転じている。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。

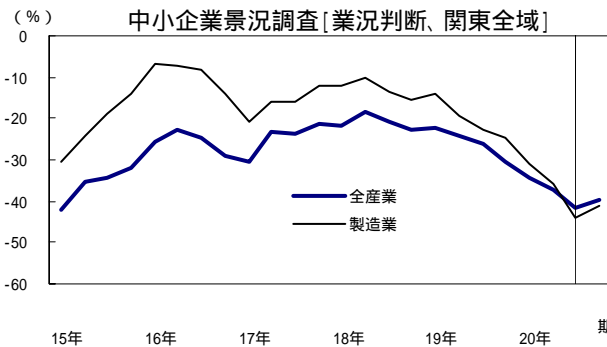
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。

15年12月までは関東全域、以降は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「後半、受注量が大幅に落ち込んでいる。一方、設備投資案件はあるが、銀行等の貸し渋りがここにきて非常に厳しくなっている。金利も引き上げられ、非常に厳しくなっている(輸送用機械器具製造業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

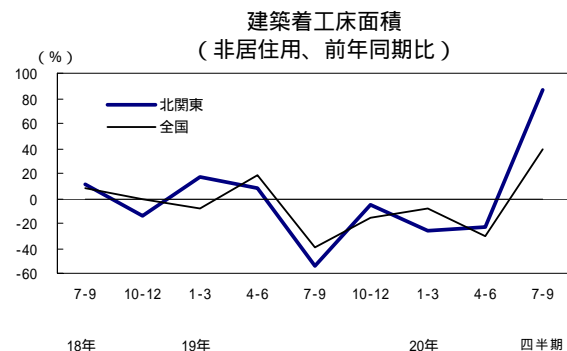
(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	10.0	16.3 [12.6]
製造業	2.2	6.3 [0.3]
非製造業	27.1	27.5 [26.6]

(備考)[]は前回(6月)調査結果。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

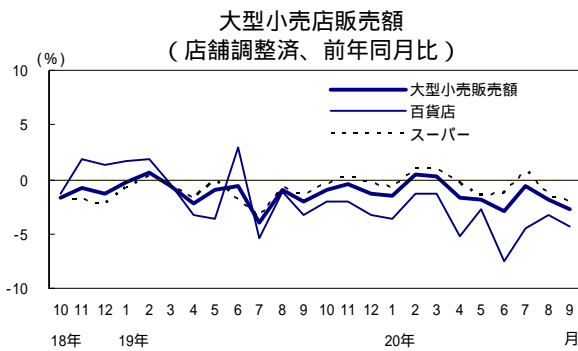
(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、一部でクリアランスセール効果が見られたものの衣料品全般では振るわず、飲食料品も低調であったことから、前年を下回った。8月は、婦人服の羽織物等に動きはあったものの衣料品全体では振るわず、飲食料品や家庭用品も低調であったことから、前年を下回った。9月は、物産展等により飲食料品に動きはあったものの、衣料品が振るわず、ハンドバッグ等の身の回り品も低調であったことから、15か月連続で前年を下回った。スーパーは、7月から8月中旬までの猛暑や肉食志向の高まり、プライベート商品の拡販等により、飲食料品は堅調であったが、衣料品や身の回り品が振るわなかったことから、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

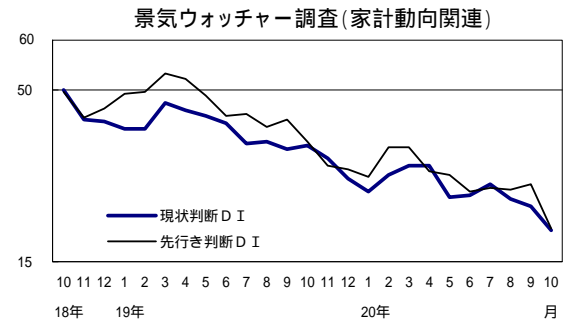
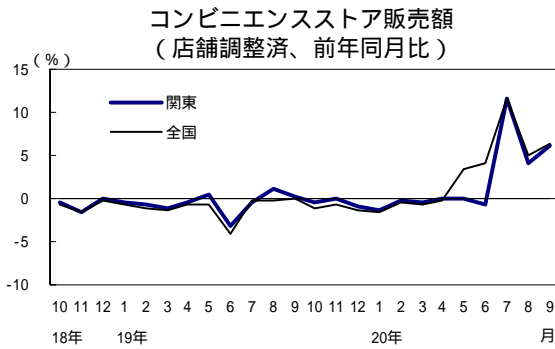
「今月は衣料、住まいの品、食品共に前年売上を割っている状況である。様々な販促を仕掛けているが大きく売上を伸ばすことができない。近隣の大型工場でも期間従業員を減らしており、影響が徐々に出てきている感がある(スーパー)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	0.9	0.3	2.1	1.7
百貨店	2.6	2.2	5.2	4.1
スーパー	0.3	0.3	1.1	0.9
コンビニ	0.5	0.7	0.2	7.2
景気ウォッチャー	35.4	32.2	30.4	28.3

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。20年7-9月期は速報値。コンビニは関東全域。

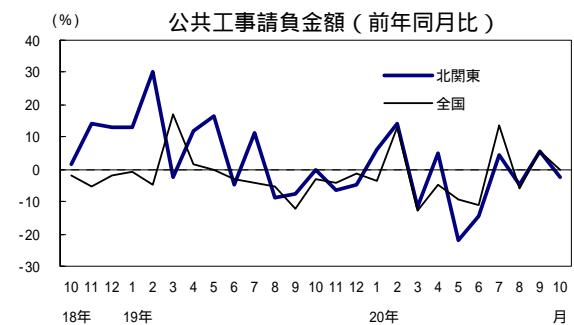
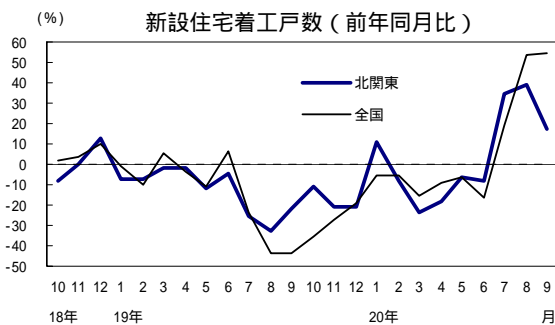
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

建築基準法改正の影響により前年の水準が低いため、貸家を中心に大幅に増加している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

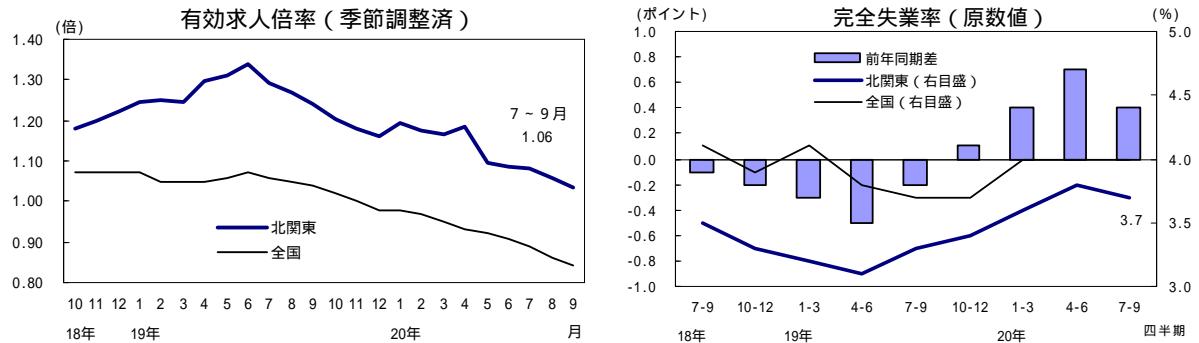


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

「企業ガイダンスでの採用情報は、技術職や営業職等の求人は若干あるが、学生が希望する事務職や製造職はほとんどない。製造業を中心に採用予定を下方修正したり、大手企業も収益見込みを下方修正し始め、さらなる採用への影響が懸念される(学校[短期大学])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

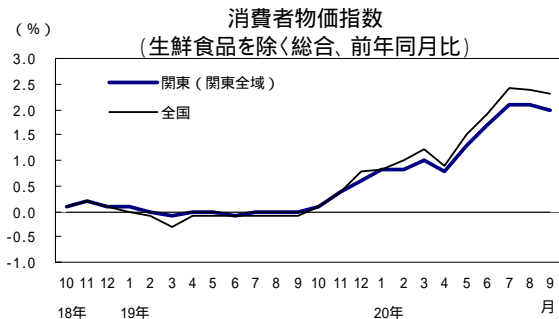
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

10月は件数、負債総額ともに大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年10-12月	20年1-3月	4-6月	7-9月	20年10月
倒産件数	196	209	216	213	83
(前年比)	2.6	0.0	3.1	10.9	31.7
負債総額	1,221	1,064	600	950	411
(前年比)	13.1	4.9	42.1	8.6	173.6



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・50キロメートル以内に2店舗の巨大ショッピングモールが今月、来月とオープンする。買い控えが顕著に表れてきており、商店街の人通りはまばらである(商店街)

<先行き>

・これまで自動車を現金で購入してきたユーザーが、リースで契約するようになってきている。資金繰りが大変なのだという感じで、先行きも厳しい(乗用車販売店)

